第二講　文法総まとめスピードチェック

次の各問いに答えよ。

問1 「このほどは、仕(つか)へ女(め)と見ゆる乙女をゐて、ふたりにて来る」の傍線部を漢字に直すとき、最も適当なものを次の中から選べ。

ア 居　イ 要　ウ 率　エ 為　オ 座

問2 「かたはしより、上下(かみしも)みなかづけたれば、かづきあまりて、ふた間(ま)ばかり積みてぞおきたりける。」の傍線部の解釈として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選べ。

ア 帝は上下の衣を揃えて、臣下にお持たせになったので

イ 臣下は部屋の隅から隅まで、整理整頓につとめたので

ウ 位の高い者も低い者もみな、玉淵の娘に衣服を与えたので

エ 上座の者から下座の者まで、ひれ伏したので

オ 臣下は帝に、我も我もと新しい衣服をさしあげたので

問3　「騒がしかりつる」の文法的説明として、最適なものを次の中から選べ。

ア　「騒がしかり」は動詞の連用形、「つる」は助動詞の終止形。
イ　「騒がしかり」は形容詞の連用形、「つる」は助動詞の連体形。
ウ　「騒がし」は形容詞の連体形、「かり」は助詞、「つる」は助動詞の已然形。
エ　「騒がし」は動詞の終止形、「かり」は助動詞の連用形、「つる」は助動詞の終止形。
オ　「騒がし」は形容詞の終止形、「かり」は助動詞の連用形、「つる」は助動詞の連体形。

問4　次の傍線部の活用形として最も適当なものをそれぞれ後の中から選べ。

すはや楠(くすのき)が多年の本望ここに遂げ①ぬと見えたるところに、…
たとひ千両万両の鎧②なりとも、何か惜しかるべきぞ。
この言葉の情を思ひ入りたるその心地、言は③ねども色に現れたり。
いにしへも今も大将たら④む人は、皆罰をば軽く行ひなだめ、…

ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形
エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

①＝　　②＝　　③＝　　④＝

問5　次の傍線部「けれ」の中で、文法上のはたらきが他と異なるものを次の中から一つ選べ。

ア　乳母もなければ
イ　おとづれければ
ウ　なかりければ
エ　いひければ

問6　次の傍線部ａ・ｂの助動詞の意味として適切なものを、それぞれ後の中から一つずつ選べ。

御住み処までありし[a]者なりけり。
この中隔てなる三条を呼ばすれ[b]ど、食ひ物に心入れて…

ア　推量　　イ　詠嘆　　ウ　希望　　エ　断定　　オ　疑問
カ　打消　　キ　過去　　ク　尊敬　　ケ　完了　　コ　使役

a＝　　　　b＝

問7　次の傍線部の意味として、最も適当なものをそれぞれ後の中から選べ。

「小野小町がひぢに掛け<u>①けむ</u>筐よりはめでたし」など言ふ人あり。
所のさま、神さび古めかしかり<u>②つる</u>ほどよりはめやすきさま<u>③なる</u>めるかなと見る。
久しくなりてはかばかしくもおぼえ<u>④ね</u>ば、いとかひなしや…
人なみなみのことにははべらざり<u>⑤し</u>かども、数ならずながら…

ア　意志　　イ　現在推量　　ウ　完了　　エ　打消
オ　断定　　カ　過去伝聞　　キ　過去

①＝　　②＝　　③＝　　④＝　　⑤＝

問8　次の傍線部の文法上の意味として最も適当なものを、後の中から一つずつ選べ。ただし、同じ記号を何度用いてもよい。

わざと物語などに作り出だしたら<u>①む</u>やうにおはすれば、やさしくすきずきしきこと多くて、…
九重にうつろひ<u>②ぬ</u>とも菊の花もとのまがきを忘れざらなむ

ア　推量　　イ　意志　　ウ　婉曲　　エ　適当　　オ　完了　　カ　断定

①＝　　②＝

問9　「兼好、いと心そらにうちまもられつつ…」の傍線部と文法的意味・用法が同じものを、次のうちから一つ選べ。

ア　ある人に誘はれ奉りて、明くるまで月見ありくこと侍りしに
イ　同じ屋敷の裏に隠居建てて、母親の住まれしが
ウ　かくてもあられけるよと、あはれに見るほどに
エ　かへりてはつらくなん、かしこき御心ざしを思ひ給へられはべる
オ　いみじき武士、仇敵なりとも、見てはうち笑まれぬべきさまのし給へれば

問10　「みどりの色もまじれるに、…」の傍線部の文法的説明として、最も適当なものを一つ選べ。

ア　ラ行四段活用動詞「まじる」の已然形＋存続の助動詞「り」の連体形
イ　ラ行四段活用動詞「まじる」の已然形＋自発の助動詞「る」の連体形
ウ　ラ行下二段活用動詞「まじる」の連用形＋存続の助動詞「り」の連体形
エ　ラ行下二段活用動詞「まじる」の未然形＋自発の助動詞「る」の連体形

問11　次の傍線部の文法上の意味として最も適当なものを、後の中から一つ選べ。

人の御心もいと頼みがたく、「いつまで」とのみながめられ給ふに、四、五日いぶせくて積りぬるを…

ア　受身　　イ　自発　　ウ　尊敬　　エ　可能　　オ　存続

問12　左のア～エの和歌のうち、傍線部が「しひてしたひ来にけり」の「に」と同じ品詞・意味のものはどれか。正しいものを一つ選べ。

ア　いざ子ども早く大和（やまと）へ大伴の御津（みつ）の浜松待ち恋ひぬらむ　（万葉集）
イ　思ひつつぬればや人の見えつらむ夢と知りせば覚めざらましを　（古今集）
ウ　契りおきしさせもが露を命にてあはれ今年の秋もいぬめり　（千載集）
エ　春の色のいたりいたらぬ里はあらじ咲ける咲かざる花の見ゆらむ　（古今集）

問13　「この文字といふものなからましかば、今の世の我らが片端も、いかでか書き伝へまし」の説明として最も適切なものを次の中から一つ選べ。

ア　文字などなくても、ささいなことでありさえすれば伝えることはできるということ。
イ　文字などなくても、なんとかしてごくわずかでいいから後世に伝えようということ。
ウ　文字があるからこそ、ささいなことも後世に伝えようという気になれるということ。
エ　文字があるからこそ、ほんのわずかなことも書き伝えることができるということ。
オ　文字がなかったなら何も書き伝えられないが、それはささいなことだということ。

問14　「ひがひがしと人々もどき聞こゆなり、と聞き給ふことなれど…」の傍線部「なり」と文法上の分類や用法が最も近いものを次の中から選べ。

ア　浮かびたるやうなるは
イ　思ひ定め給ふなる
ウ　音なくなりぬるを
エ　似げなきことなり
オ　めづらかなりける

問15　「おもしろき夢や見つらむ」の傍線部の文法的な説明として最も適当なもの一つを、次記各項の中から選べ。

ア　「見」は動詞、「つ」は完了の助動詞、「らむ」は推量の助動詞
イ　「見」は動詞、「つ」は完了の助動詞、「ら」は完了の助動詞、「む」は推量の助動詞
ウ　「見」は動詞、「つら」は完了の助動詞、「む」は推量の助動詞
エ　「見つ」は動詞、「らむ」は推量の助動詞
オ　「見つ」は動詞、「ら」は完了の助動詞、「む」は推量の助動詞

問16　「いづくの島守となれらむ」の傍線部の文法的説明として最適なものを次の中から選べ。

ア　ラ行下二段活用の動詞＋現在推量の助動詞
イ　ラ行下二段活用の動詞＋完了の助動詞＋婉曲の助動詞
ウ　ラ行下二段活用の動詞＋婉曲の助動詞
エ　ラ行四段活用の動詞＋現在推量の助動詞
オ　ラ行四段活用の動詞＋完了の助動詞＋婉曲の助動詞

問17　「捨て果てさせ給ふ［　　］にやと、頼みをぞかけきこえける」の空欄に助動詞「まじ」を適切に活用させて記せ。

問18 次の空欄［a］〜［d］に入る語の組み合わせとして、最も適切なものを後の中から一つ選べ。

「〜よろしき歌詠み出で［a］ば、面目もあり、道の名誉もいでき［b］べし。さはあれど、所々にへつらひ歩きて、人に馴らされたち［c］ば、歌にとりて人に知らるる方はありとも、遷度のさはりとはかならずなるべかめり。（中略）人に言はれむと思はるべきぞ」となむ、教へ侍り［d］。

ア　a　たら　　b　ぬ　　c　なれ　　d　し
イ　a　たら　　b　ぬ　　c　な　　d　し
ウ　a　たれ　　b　ぬ　　c　な　　d　しか
エ　a　たれ　　b　ぬる　　c　なれ　　d　し
オ　a　たら　　b　ぬる　　c　なれ　　d　しか

問19 「おはするにこそ」の文法的説明として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　サ行下二段活用動詞の連体形＋格助詞＋係助詞
イ　サ行四段活用動詞の連体形＋完了の助動詞の連体形＋接続助詞＋係助詞
ウ　サ行下二段活用動詞の連体形＋断定の助動詞の連用形＋係助詞
エ　サ行変格活用動詞の連体形＋格助詞＋係助詞
オ　サ行変格活用動詞の連体形＋断定の助動詞の連用形＋係助詞

問20　「資盛の侍従のつかうまつれるにや。」の傍線部の文法的説明として適当なものを、次の中から選べ。

ア　動詞「つかうまつる」の一部＋完了の助動詞「ぬ」＋疑問の助詞「や」
イ　動詞「つかうまつる」の一部＋断定の助動詞「なり」＋詠嘆の助詞「や」
ウ　完了の助動詞「り」＋断定の助動詞「なり」＋疑問の助詞「や」
エ　完了の助動詞「り」＋伝聞の助動詞「なり」＋詠嘆の助詞「や」
オ　尊敬の助動詞「る」＋完了の助動詞「ぬ」＋詠嘆の助詞「や」

問21　「やみなんずるなめり」の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア　動詞　＋　意志の助動詞　＋　強意の助動詞　＋　完了の助動詞
イ　動詞　＋　推量の助動詞　＋　打消の助動詞　＋　完了の助動詞　＋　断定の助動詞　＋　推量の助動詞
ウ　動詞　＋　係助詞　＋　打消の助動詞　＋　動詞　＋　完了の助動詞
エ　動詞　＋　完了の助動詞　＋　打消の助動詞　＋　完了の助動詞　＋　推量の助動詞　＋　完了の助動詞
オ　動詞　＋　完了の助動詞　＋　推量の助動詞　＋　断定の助動詞　＋　推量の助動詞

問22　次の傍線部の文法的説明として最も適切なものを後の中から選べ。

将門（まさかど）が乱など出できて、怖（おそ）れ過ごさせおはしましほどに、やがて代はらせたまひにしぞかし。

＊将門が乱　天慶二（九三九）年から同三年にかけて平将門が起こした戦乱。

ア　動詞＋使役の助動詞＋補助動詞＋格助詞＋過去の助動詞＋係助詞＋終助詞

イ　動詞＋補助動詞＋完了の助動詞＋動詞＋係助詞＋終助詞

ウ　動詞＋補助動詞＋格助詞＋尊敬の助動詞＋終助詞＋終助詞

エ　動詞＋尊敬の助動詞＋補助動詞＋完了の助動詞＋過去の助動詞＋係助詞＋終助詞

オ　動詞＋尊敬の助動詞＋動詞＋過去の助動詞＋動詞＋終助詞＋感動詞

問23　「薬玉は菊の折まであるべきにやあらむ。」の傍線部と同じ助動詞を次の中から一つ選べ。

ア　舟路なれど、馬のはなむけす

イ　月も見で寝にきといひし人

ウ　世の中に物語といふもののあなるを、いかで見ばや

エ　まめまめしきものは、まさなかりなむ

オ　舟こぞりて泣きにけり

問24「かうしつつ死にもこそすれ」の解釈として最適なものを次の中から選べ。

ア　このまま死んでしまいたい
イ　このまま死んでしまうことはないだろう
ウ　このまま死んでしまってはたいへんだ
エ　このまま死ぬのだろうか、いや、そんなはずはない

問25「あるほどにだにあらば、思ひあらむにしたがひても語らひつべきを」の解釈として最適なものを次の中から選べ。

ア　命があるのもあとわずかということであれば、思いのままにすべてを語り尽くしてしまうのだが
イ　せめて命のある間に話す機会だけでもあれば、きっと思いのままに語らっておくことができるのだが
ウ　十分に時間が残されているのであれば、思いついたその時々に語りかけることもできるのだが
エ　生きている間でさえも話す機会がないのに、ましてや来世で思いのままに語らえるだろうか

問26　「きたなき聞こえさへ」の解釈として最適なものを次の中から選べ。

ア　強欲に申し上げることばかり
イ　好ましくない評判までも
ウ　家の恥となるぐらいの事件が
エ　落ちぶれたという噂すら

問27　「代はる代はるかちより歩み、御車に参り代はりつつ、…」の傍線部を漢字で記せ。（ただし、楷書（かいしょ）で記すこと）

問28　次の傍線部（a）「心して」・（b）「筆して」の文法的説明の組合せとして最も適当なものを、後から一つ選べ。

若君の御料をさへ細やかに(a)心して奉り給ひて、…
御手に持ち給へる(b)筆して、御堂の柱に物書き給ふを、…

ア　（a）名詞に副助詞が付いたもの　（b）名詞に格助詞が付いたもの
イ　（a）名詞に格助詞が付いたもの　（b）名詞に動詞連用形と接続助詞が付いたもの
ウ　（a）名詞に格助詞が付いたもの　（b）動詞連用形に接続助詞が付いたもの
エ　（a）動詞連用形に接続助詞が付いたもの　（b）名詞に動詞連用形と接続助詞が付いたもの
オ　（a）動詞連用形に接続助詞が付いたもの　（b）名詞に格助詞が付いたもの

問29　次の傍線部①～④について、「の」の文法的説明として適当なものを、それぞれ後の中から一つ選びなさい。同じ記号を何度用いてもよい。

極楽寺は、この殿①の造り給へるところなり。
この時に、僧どもの御寺にやすく住むことは、殿②の御徳（とく）にてこそあれ。
※びんづら結ひたる童（わらは）③の、※楚（すはえ）持ちたるが、中門の方より入り来て、楚してこの鬼どもを片端（かたはし）より打ち払ひつれば、
『何物④のかくはするぞ』と問ひつれば…

※びんづら＝「みづら」の転。元服以前の髪型。　※楚＝木の枝で作ったむち。

ア　主格の格助詞　　イ　連体修飾格の格助詞　　ウ　同格の格助詞
エ　連用修飾格の格助詞　　オ　比喩の格助詞

①＝　　②＝　　③＝　　④＝

問30　「おしなべて峰もたひらになりななむ山の端なくは月も入らじを」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　動詞＋助動詞＋助動詞　　イ　動詞＋動詞＋助動詞
ウ　動詞＋助詞＋助詞　　エ　動詞＋動詞＋動詞＋助詞
オ　動詞＋助動詞＋助詞

問31　「ものへいなむと思ひたる気色」について、文法的な説明として適当でないものを次の中から選べ。

ア　ナ行変格活用の動詞が一度用いられている。
イ　四段活用の動詞が一度用いられている。
ウ　係助詞が一度用いられている。
エ　意志の意味の助動詞が一度用いられている。
オ　存続の意味の助動詞が一度用いられている。

問32　「更に知る人なし」の傍線部の意味としてもっとも適切なものを、次の中から選べ。

ア　再び　　イ　全く　　ウ　新たに　　エ　ますます

問33 次の空欄には助詞が一語入る。その助詞として最も適切なものを、記せ。

ありぬべき所をとらへて、人にすげさするに、（中略）とみにもさし入れぬを、「いで、ただなすげ[　]」と言ふを、…

問34 「いかでかはさらでは侍らん」を現代語に訳すとどのようになるか。次の中からもっとも適切なものを一つ選べ。

ア どうしてそうなるのでしょう。
イ どうして、そうならないのでしょう。
ウ どうして、そうなることがありましょう。
エ どうして、そうならないことがありましょう。

問35 次の空欄に入れる言葉として最適なものを、後のア～オから選べ。

かの士（さぶらひ）、いかにもしてたすけ[　]と思案をめぐらせども、せんかたなし。

ア ばや　イ べし　ウ たり　エ らむ　オ ざらむ

問36　次の傍線部を現代語訳せよ。

一条院隠れさせ給ひて、

　逢ふことも今はなき寝の<u>夢ならでいつかは君をまたは見るべき</u>

など詠ませ給へるも、いとめでたくこそ侍れ。

問37　次の傍線部ａ～ｃをア「尊敬語」、イ「謙譲語」、ウ「丁寧語」に分類するとき、それぞれ、どれに該当するかを一つ選べ。

いみじう辛(から)かるべきことにてなむ[a]<u>侍る</u>べきを、…

いかに[b]<u>おぼし</u>なりにけることにか、…

早うの人は、我より高き所に[c]<u>まうで</u>ては、…

a＝

b＝

c＝

問38 次の傍線部ア〜エのうち、敬語の種類（尊敬・謙譲・丁寧の別）が他と異なるものを一つ選べ。

俊恵いはく、「五条三位入道の〜身にとりてのおもて歌と思ひ<u>給ふる</u>（ア）といはれしを、〜よそにはさもや定め侍るらむ、知り<u>給へ</u>（イ）ず。」と語りて〜、そのついでに、「わが歌の中には〜かのたぐひにせむと思ひ<u>給ふる</u>（ウ）。もし世の末におぼつかなくいふ人もあらば、かくこそいひしかと語り<u>給へ</u>（エ）」とぞ。

問39 「御車も、牛もいたづらに候ひぬれば、やがて奉りてこそは」の解釈として最適なものを次の中から選べ。

ア　お車も牛もなくなりましたので、姫君は少し遅れてこちらに参上なさいますよ。
イ　お車も牛も準備を終えましたので、姫君も急ぎお召し物を召されているところですよ。
ウ　お車も牛も余っていますので、姫君はそのままお乗りになってこられますよ。
エ　お車も牛も使い道がないので、そのうち私から姫君に献上いたしますよ。

問40 次の傍線部は誰に対する敬意を表しているか、最も適当なものを後の中から選べ。

中納言のことは音なくなりぬるを、中将の内侍<u>奏し</u>てけるなんめりと心得て、女君にも聞こえ知らせ給ふ。

ア　中納言　　イ　中将の内侍　　ウ　女君　　エ　帝　　オ　世間の人々

【第二講】

〈模範解答〉

問1　ウ　【第一講　チャプター1】　※【講・チャプター】は『高3　古文〈文法編〉』より（以下同）

問2　ウ　【第一講　チャプター2】

問3　イ　【第一講　チャプター3】

問4　①　ウ　②　ウ　③　オ　④　エ　【第一講　チャプター1】

問5　ア　【第二講　チャプター2】

問6　a　キ　【第十講　チャプター3】　b　コ　【第四講　チャプター3】

問7　①　カ　【第五講　チャプター4】　②　ウ　【第三講　チャプター1】

③　オ　【第七講　チャプター1】　④　エ　【第三講　チャプター2】

⑤　キ　【第二講　チャプター3】

問8　①　ウ　【第五講　チャプター1】　②　オ　【第三講　チャプター2】

問9　オ　【第四講　チャプター1】

問10　ア　【第四講　チャプター2】

問11　イ　【第四講　チャプター1】

問12　ア　【「に」＝第十一講　チャプター3　／　「ぬ」＝第三講　チャプター2】

問13　エ　【第六講　チャプター3】

問14　イ　【第七講　チャプター2】

問15　ア　【第六講　チャプター1】

問16　オ　【第六講　チャプター1】

問17 まじき 【断定「なり」の形容詞型への接続＝第七講　チャプター3 ／「まじ」＝第六講　チャプター2】
問18 イ 【a「ば」の接続＝第八講　チャプター3 ／
b・c・d「べし・ぬ・なり」の接続・係り結び＝第二講　チャプター2 ／
d「き」の活用＝第二講　チャプター1】
問19 オ 【「おはす」＝第一講　チャプター1 ／「に」＝第十一講　チャプター3】
問20 ウ 【「る」の識別＝第四講　チャプター2 ／「に」＝第十一講　チャプター3】
問21 オ 【「むずる」＝第五講　チャプター1 ／「なめり」＝第七講　チャプター3】
問22 エ 【「せ」の識別＝第四講　チャプター4 ／ 補助動詞＝第十二講　チャプター1 ／
「に」＝第十一講　チャプター3 ／「かし」＝第十講　チャプター1】
問23 ア 【「に」＝第十一講　チャプター3 ／「なり」＝第七講　チャプター2・3】
問24 ウ 【第八講　チャプター2】
問25 イ 【第十講　チャプター2】
問26 イ 【第十講　チャプター2】
問27 徒歩 【第九講　チャプター5】
問28 オ 【第九講　チャプター5】
問29 ① ア　② イ　③ ウ　④ ア 【第九講　チャプター3】
問30 オ 【第十一講　チャプター1】
問31 ウ 【第十一講　チャプター1】
問32 イ 【第十講　チャプター4】
問33 そ 【第十講　チャプター4】
問34 エ 【「いかでか」＝第十講　チャプター4 ／「かは」＝第八講　チャプター1 ／「で」＝第九講　チャプター1】
問35 ア 【「ばや」＝第十講　チャプター1 ／「ども」＝第八講　チャプター3】

問36　夢ではなく、いつ君（あなた・一条院）とまた会うことができるだろうか、いや、できない

【「なり」=第七講　チャプター1　／　**「で」=第九講　チャプター1**　／

「かは」=第八講　チャプター1　／　**「べし」=第六講　チャプター2】**

問37　a　ウ　**【第十二講　チャプター1】**　　b　ア　**【第十二講　チャプター3】**

c　イ　**【第十二講　チャプター3】**

問38　エ　**【第十二講　チャプター2】**

問39　ウ　**【第十二講　チャプター3】**

問40　エ　**【第十二講　チャプター4】**